第６期恵庭市総合計画　分野別まちづくりワークショップ
市民協働・共生分野

日時：令和６年８月２６日（月）14：00～16：00
場所：恵庭市民会館　大会議室

恵庭市を取り巻く環境について共有を行い、各分野の「恵庭らしさと、１０年後のまちについて」、「１０年後のまちにむけて私達ができること」、「持続可能なまちのために」をテーマとし、ワークショップを行いました。１３名の市内各種団体の皆様にご参加いただきました。

Aグループ

- いいなという面は、交通アクセスが良くて便利、市民活動が活発である点
- 今と変わらず、市民活動は活発にしていきたい
- 高齢者の活動に情熱、芯の強い絆をつくるための活動
- 図書館等の居場所づくり、機能が充実すると良い
- 若者と高齢者の共生
- 企業誘致などにも積極的に取り組んでいきたい
- １０年後も、不審者扱いされないように挨拶は大事
- 外国人ともっと知り合いになれたら良い
- 子どもたちと触れ合う、何かをして過ごす、今の子どもたちに恵庭の魅力を伝えること、大人から子どもへ歩み寄っていくことが大事
- 人材育成、人と人がつながり、継承していく
- そのためには子どもが参加できる環境づくりが大切
- 情報通なまちということで、どこから情報を仕入れるのがよいのか、情報に対しての極端な差を埋められるよう市民一体となる
- 外国人の方も恵庭市民なので、サポートする人を増やしていく、応援していく
- 持続可能なまちにしていくためには、縦のつながりだけではなく、横のつながりも増やすことが大切である

Bグループ

- 恵庭は田舎だが、東京に行くにも、札幌に行くにもちょうどよいまちではないか
- 様々な人の交流できる場所づくり、空き家活用
- 形にできるような場所をつくるためには、日本人は減少している中で、外国人も技能実習者だけではなく羽ばたいてほしい
- 恵庭にいながらにして、世界で活躍するために、文化が薫るまちにしていきたい
- 恵庭愛を持った子どもたちのため、地元愛を育んでいきたい

まとめ

- 程よく、ちょうどよく田舎ということは両グループから出ていた
- 恵庭は今でも十分ステキ
- 本屋さんがほしいという声が出ていた
- 様々な世代、国籍、背景等が異なっていても集まれる場所は作っていかなければならない
- 特に外国人については、もっと交流できる、環境見直しが出ていたところ
- 文化が薫るまちにしていきたい
- 活動の場所に行くための足がないことは悩んでいて、活動を広げたりする上で大切
- つながり、人を育てる、若い人、子どもの教育、地元の人に教えてもらったりして、学んでいった人たちが帰ってくるまちづくり